

第35回 県政に関する世論調査の結果について

平成20年4月17日
千葉県総合企画部報道広報課
電話 043-223-2265

県政に関する世論調査は、県民の生活と県政の主要分野にわたる県民の関心、要望、意向などをとらえ、県政推進の基礎資料とすることを目的として、昭和50年度から毎年実施しています。

平成18年度から年2回実施しており、本調査は平成19年度第2回目で県内在住の満20歳以上の男女3,000名を対象に、昨年11月に郵送法で実施しました。

具体的内容としては、保健医療、高齢者福祉施策、生涯大学校、生涯学習の推進、食育に関する県民意識、地球温暖化問題、森林と里山に関する意識、市民活動、犯罪のない安全で安心なまちづくり、県民の治安に対する意識と交番に求めること、道路整備の11項目の県政の主要課題について調査を行いました。

1. 調査の設計

- (1) 調査対象 千葉県在住の満20歳以上の男女個人
- (2) 標本数 3,000人
- (3) 抽出方法 層化二段無作為抽出法

※層化二段無作為抽出法とは、行政単位と地域によって県内をブロックに分類し（層化）、各層に調査地点を人口に応じて比例配分し、国勢調査における調査区域及び住民基本台帳を利用して（二段）、各地点ごとに一定数のサンプル抽出を行うものである。

- (4) 調査方法 郵送法（郵送配付－郵送回収）
- (5) 調査時期 平成19年11月21日～12月12日

2. 回収結果

有効回収数（率） 1,592（53.1%）

3. 調査の項目

県政の主要課題

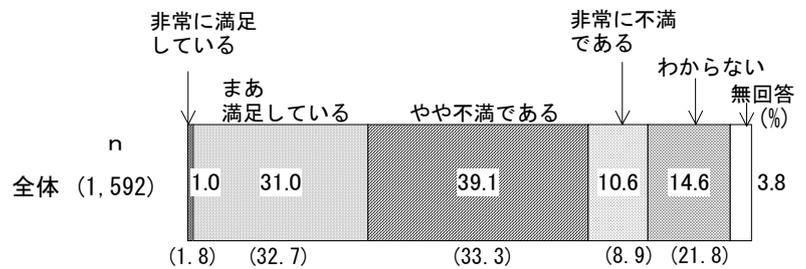
- ①保健医療について
- ②高齢者福祉施策について
- ③生涯大学校について
- ④生涯学習の推進について
- ⑤食育に関する県民意識について
- ⑥地球温暖化問題について
- ⑦森林と里山に関する意識について
- ⑧市民活動について
- ⑨犯罪のない安全で安心なまちづくりについて
- ⑩県民の治安に対する意識と交番に求めることについて
- ⑪道路整備について

4. 調査の結果

1 保健医療について

(1) 医療提供体制の満足度

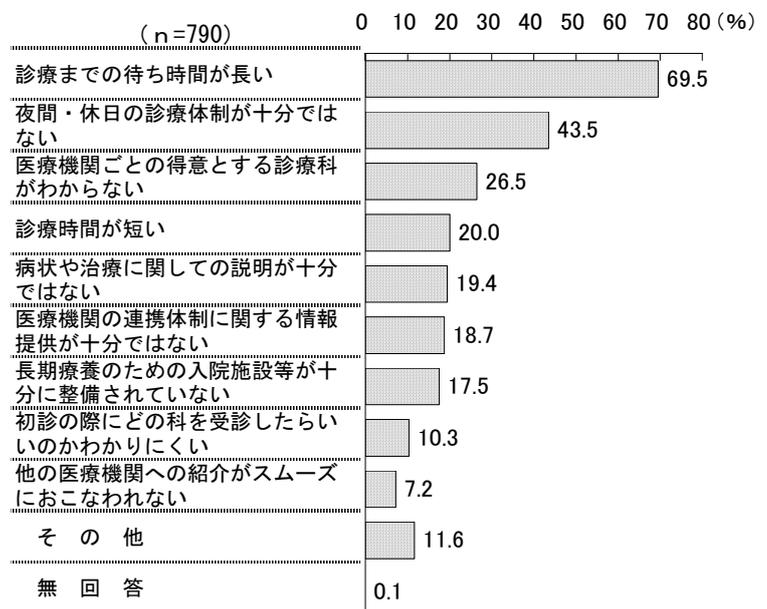
千葉県内の医療提供体制の満足度を聞いたところ、「非常に満足している」(1.0%)と「まあ満足している」(31.0%)を合わせた『満足』(32.0%)は3割を超えている。一方、「やや不満である」(39.1%)と「非常に不満である」(10.6%)を合わせた『不満』(49.7%)は約5割となっている。



注) 下段の () 書きは、平成17年度の同様の項目の調査結果を参考として示している。

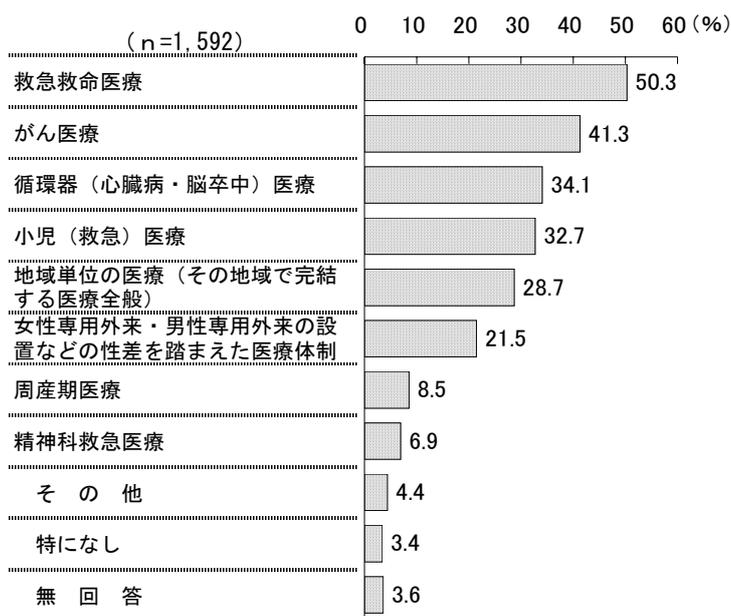
(1-1) 医療提供体制に不満を感じている理由

千葉県内の医療提供体制に「やや不満である」または「非常に不満である」と答えた790人を対象に、不満を感じている理由を3つまで選んでもらったところ、「診療までの待ち時間が長い」(69.5%)が約7割で特に高く、これに「夜間・休日の診療体制が十分ではない」(43.5%)、「医療機関ごとの得意とする診療科がわからない」(26.5%)、「診療時間が短い」(20.0%)、「病状や治療に関しての説明が十分ではない」(19.4%)が続いている。



(2) 今後充実してほしい医療分野

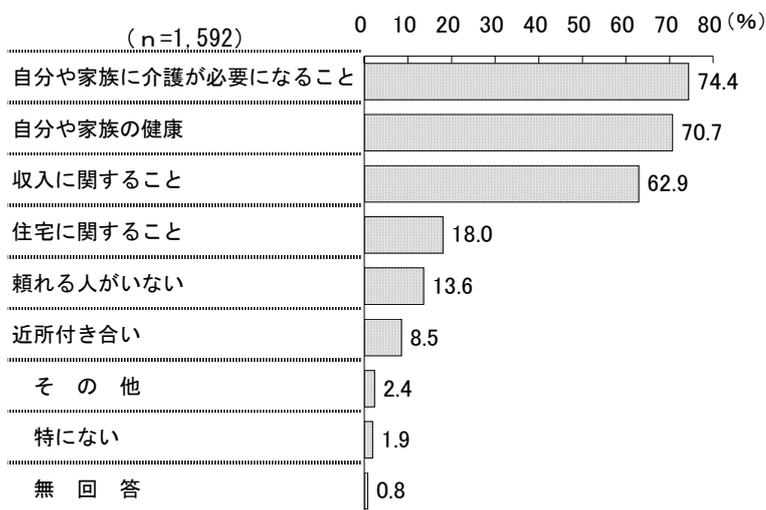
今後、県に力を入れて欲しい医療を3つまで選んでもらったところ、「救急救命医療」(50.3%)が5割で最も高く、これに「がん医療」(41.3%)、「循環器(心臓病・脳卒中)医療」(34.1%)、「小児(救急)医療」(32.7%)、「地域単位の医療(その地域で完結する医療全般)」(28.7%)が続いている。



2 高齢者福祉施策について

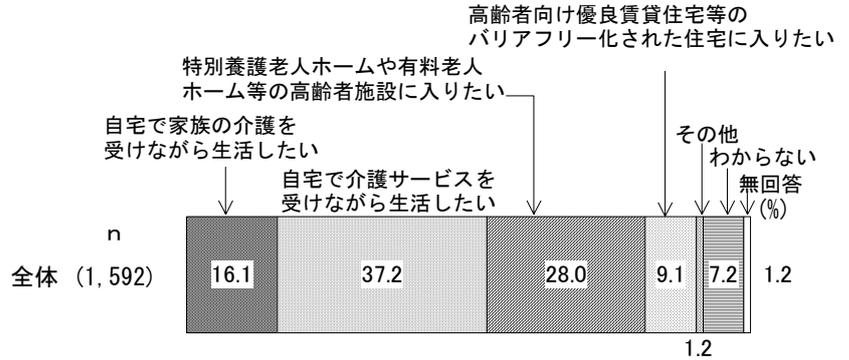
(1) 老後の不安

老後の不安とは何かをいくつでも選んでもらったところ、「自分や家族に介護が必要になること」(74.4%)が7割台半ば、「自分や家族の健康」(70.7%)が7割、「収入に関すること」(62.9%)が6割を超えており、この3項目が特に高くなっている。「住宅に関すること」(18.0%)は約2割で、「頼れる人がいない」(13.6%)や「近所付き合い」(8.5%)は1割前後となっている。



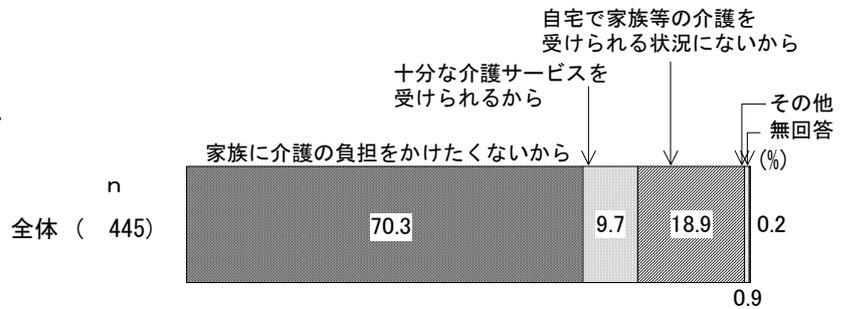
(2) 介護が必要となった場合に希望する生活

介護が必要となった場合、どのような生活を望むか聞いたところ、「自宅で介護サービスを受けながら生活したい」(37.2%)が約4割で最も高くなっている。「特別養護老人ホームや有料老人ホーム等の高齢者施設に入りたい」(28.0%)は約3割、「自宅で家族の介護を受けながら生活したい」(16.1%)は1割台半ば、「高齢者向け優良賃貸住宅等のバリアフリー化された住宅に入りたい」(9.1%)は約1割となっている。



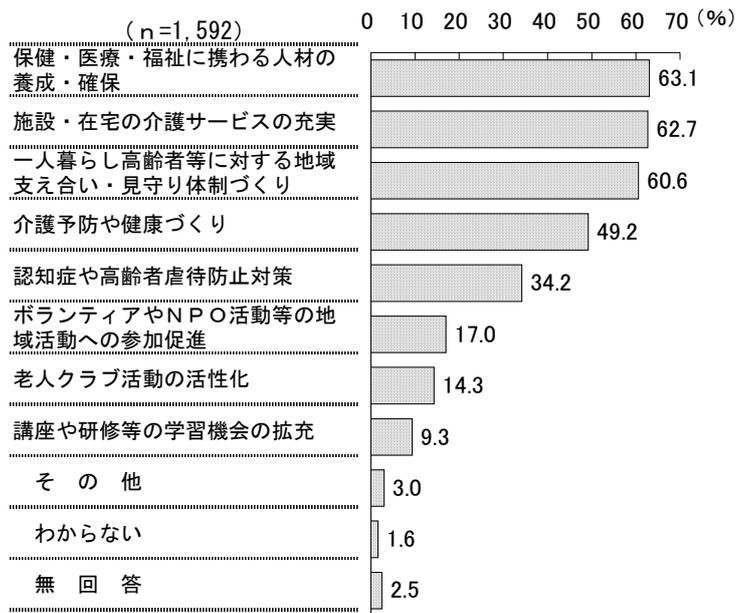
(2-1) 高齢者施設に入所したい理由

介護が必要となったとき、「特別養護老人ホームや有料老人ホーム等の高齢者施設に入りたい」と答えた445人を対象に、その理由を聞いたところ、「家族に介護の負担をかけたくないから」(70.3%)が7割で特に高くなっている。「自宅で家族等の介護を受けられる状況にないから」(18.9%)は約2割、「十分な介護サービスを受けられるから」(9.7%)は約1割である。



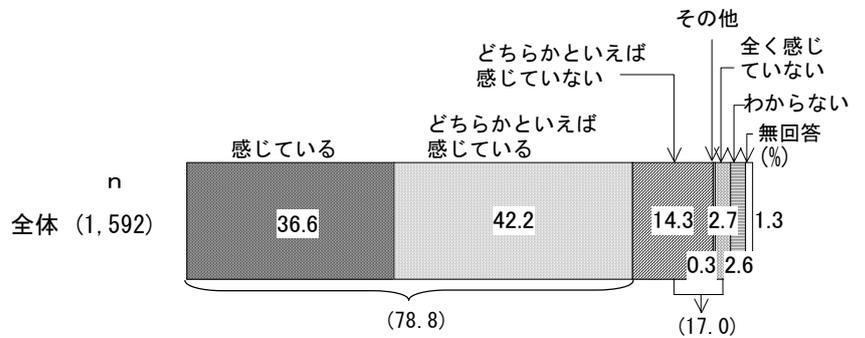
(3) 高齢者福祉施策として重要なこと

高齢者福祉施策として重要だと思うことをいくつかでも選んでもらったところ、「保健・医療・福祉に携わる人材の養成・確保」(63.1%)と「施設・在宅の介護サービスの充実」(62.7%)、「一人暮らし高齢者等に対する地域支え合い・見守り体制づくり」(60.6%)の3項目が6割以上となっている。これに「介護予防や健康づくり」(49.2%)、「認知症や高齢者虐待防止対策」(34.2%)が続く。



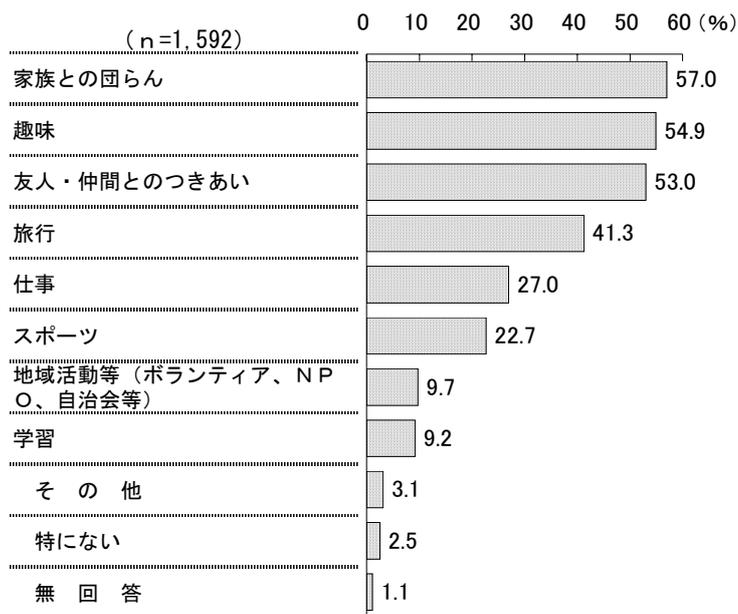
(4) 楽しみや生きがいの有無

現在、楽しみや生きがいを持って生活を送っていると感じているか聞いたところ、「感じている」(36.6%)と「どちらかといえば感じている」(42.2%)を合わせた『感じている』(78.8%)は約8割となっている。一方、「どちらかといえば感じていない」(14.3%)と「全く感じていない」(2.7%)を合わせた『感じていない』(17.0%)は約2割である。



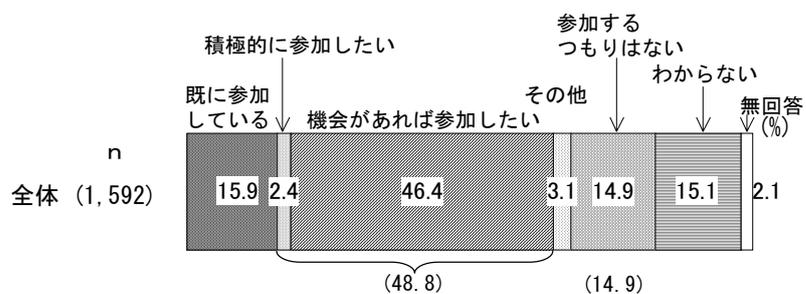
(5) 楽しみや生きがいを感じること

楽しみや生きがいを感じることをいくつでも選んでもらったところ、「家族との団らん」(57.0%)が約6割で最も高く、これに「趣味」(54.9%)、「友人・仲間とのつきあい」(53.0%)、「旅行」(41.3%)、「仕事」(27.0%)、「スポーツ」(22.7%)が続く。



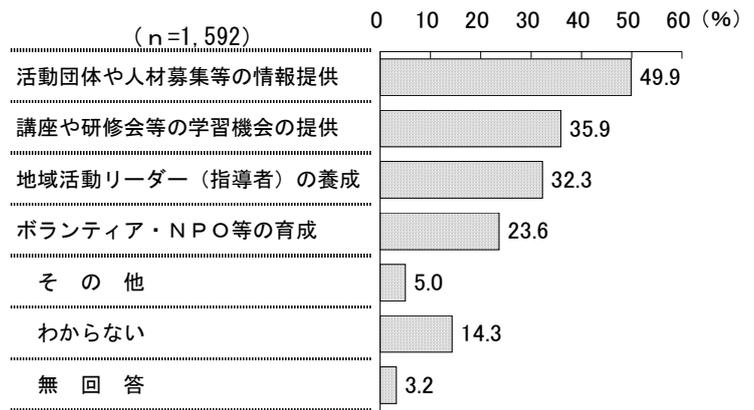
(6) 地域活動等への参加意向

ボランティア、NPO、自治会等の地域活動に参加したいか聞いたところ、「既に参加している」(15.9%)は1割台半ばとなっている。「積極的に参加したい」(2.4%)と「機会があれば参加したい」(46.4%)の2つを合わせた『参加意向』(48.8%)は約5割で、「参加するつもりはない」(14.9%)は1割台半ばである。



(7) 高齢者が地域活動等へ参加するために重要なこと

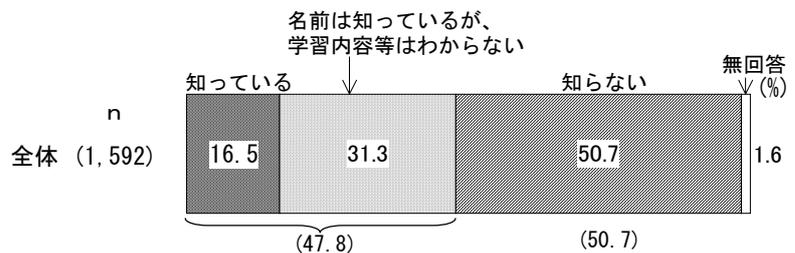
高齢者が地域活動等へ積極的に参加するために、重要だと思うことをいくつか選んでもらったところ、「活動団体や人材募集等の情報提供」(49.9%)が約5割で最も高くなっている。これに「講座や研修会等の学習機会の提供」(35.9%)、「地域活動リーダー(指導者)の養成」(32.3%)、「ボランティア・NPO等の育成」(23.6%)が続く。



3 生涯大学校について

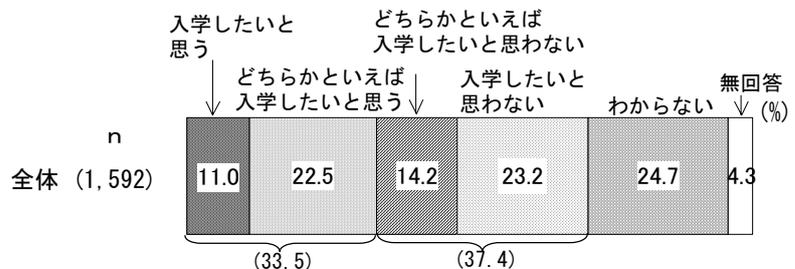
(1) 生涯大学校の認知度

生涯大学校を知っているか聞いたところ、「知っている」(16.5%)は1割半ばで、「名前は知っているが、学習内容等はわからない」(31.3%)は3割を超えている。この2つを合わせた『認知度』(47.8%)は約5割である。「知らない」(50.7%)は5割である。



(2) 生涯大学校への入学意向

60歳以上になったとき、生涯大学校に入学したいと思うか聞いたところ、「入学したいと思う」(11.0%)と「どちらかといえば入学したいと思う」(22.5%)の2つを合わせた『入学したい』(33.5%)は3割台半ばとなっている。「どちらかといえば入学したいと思わない」(14.2%)と「入学したいと思わない」(23.2%)の2つを合わせた『入学したいと思わない』(37.4%)は約4割である。



(3) 生涯大学校で学びたいこと

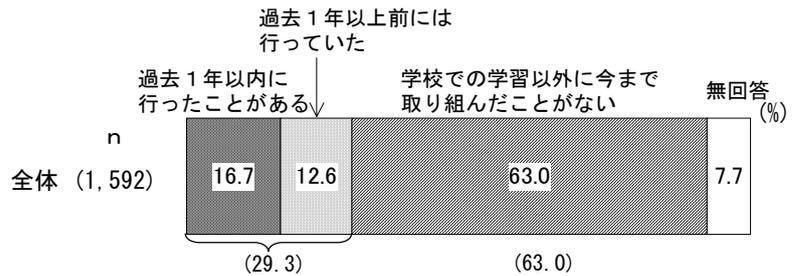
生涯大学校で学びたいことについて、自由記述形式で聞いたところ、466人から延べ717件の回答があった。その内容から特定の分野ごとに仕分けた634件についてまとめたところ、件数の多い回答は右記のとおりである。

項目	件数
園芸	70
運動、スポーツ、レクリエーション	51
陶芸	43
健康	36
福祉活動	32
外国語	30
一般教養、マナー	27
地域活動、ボランティア NPOなどの活動	26
環境問題	23
介護	22
歴史、考古学	22
芸術、絵画	21
料理、栄養、食育	20

4 生涯学習の推進について

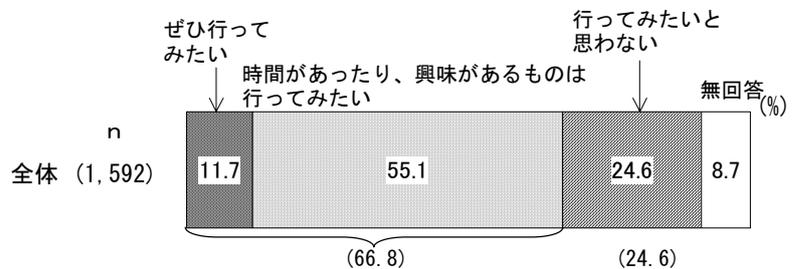
(1) 生涯学習活動の経験

生涯学習活動を行ったことがあるか聞いたところ、「過去1年以内に行ったことがある」(16.7%)と「過去1年以上前には行っていた」(12.6%)を合わせた『行ったことがある』(29.3%)は約3割となっている。「学校での学習以外に今まで取り組んだことがない」(63.0%)は6割台半ばである。



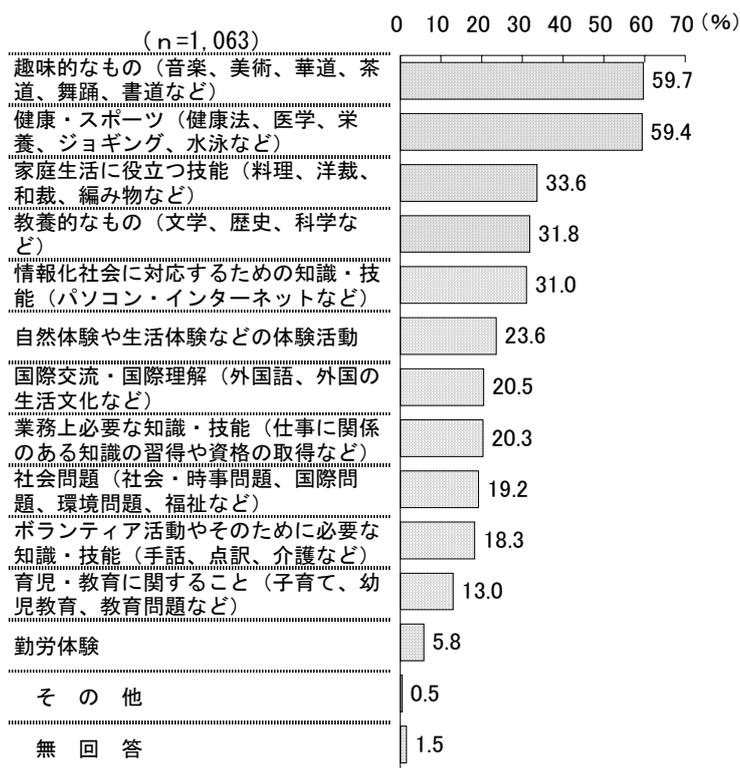
(2) 生涯学習活動への参加意向

今後、生涯学習活動を行ってみたいと思うか聞いたところ、「ぜひ行ってみたい」(11.7%)と「時間があったり、興味があるものは行ってみたい」(55.1%)の2つを合わせた『参加意向』(66.8%)は6割台半ばとなっている。「行ってみたいと思わない」(24.6%)は2割台半ばである。



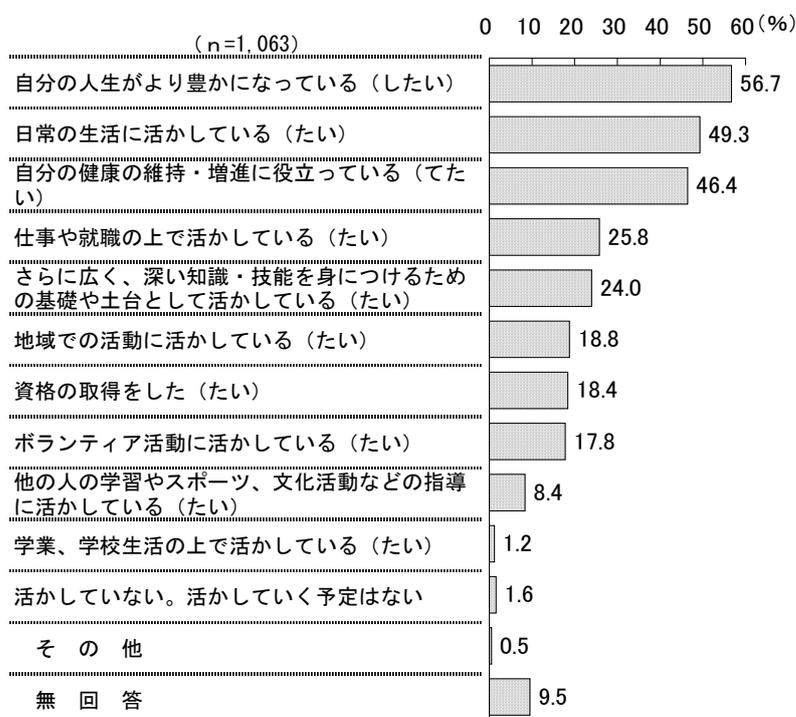
(2-1) 参加したい生涯学習活動の分野

今後、生涯学習活動を「ぜひ行ってみたい」または「時間があつたり、興味があるものは行ってみたい」と答えた1,063人を対象に、どのような生涯学習活動を行いたいかをいくつかでも選んでもらったところ、「趣味的なもの」(59.7%)と「健康・スポーツ」(59.4%)の2項目が約6割で高くなっている。これに「家庭生活に役立つ技能」(33.6%)、「教養的なもの」(31.8%)、「情報化社会に対応するための知識・技能」(31.0%)が続く。



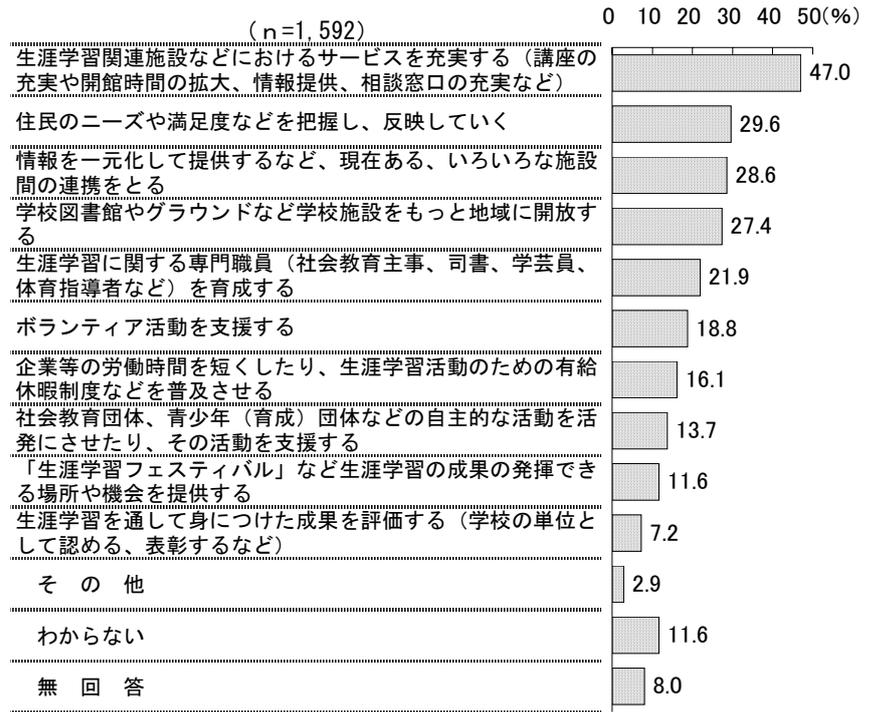
(2-2) 生涯学習活動で得た知識等の活用のしかた

今後、生涯学習活動を「ぜひ行ってみたい」または「時間があつたり、興味があるものは行ってみたい」と答えた1,063人を対象に、生涯学習活動を通じて身につけた知識・技能や経験をどのように活かすかをいくつかでも選んでもらったところ、「自分の人生がより豊かになっている (したい)」(56.7%)が5割台半ばで最も高い。これに「日常生活に活かしている (たい)」(49.3%)、「自分の健康の維持・増進に役立っている (てたい)」(46.4%)が続く。



(3) 生涯学習活動を盛んにするために県に期待すること

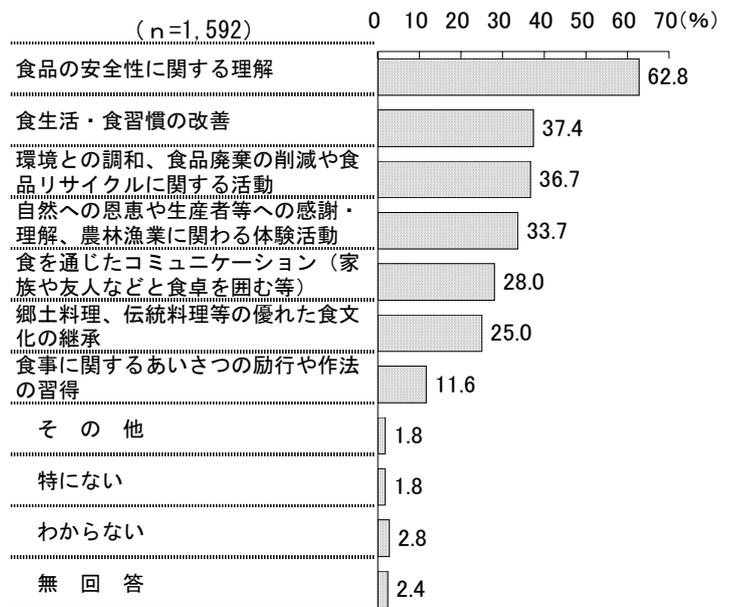
今後、県民の生涯学習活動を盛んにしていくために、県が力を入れるべきことは何かをいくつかでも選んでもらったところ、「生涯学習関連施設などにおけるサービスを充実する」(47.0%)が約5割で最も高い。これに「住民のニーズや満足度を把握し、反映していく」(29.6%)、「情報を一元化して提供するなど、現在ある、いろいろな施設間の連携をとる」(28.6%)、「学校図書館やグラウンドなど学校施設をもっと地域に開放する」(27.4%)が続く。



5 食育に関する県民意識について

(1) 食育の県民運動としての取り組みで重要なこと

食育の県民運動として取り組む内容として重要だと思うことを3つまで選んでもらったところ、「食品の安全性に関する理解」(62.8%)が6割を超えて最も高くなっている。これに「食生活・食習慣の改善」(37.4%)、「環境との調和、食品廃棄の削減や食品リサイクルに関する活動」(36.7%)、「自然への恩恵や生産者等への感謝・理解、農林漁業に関わる体験活動」(33.7%)が続く。



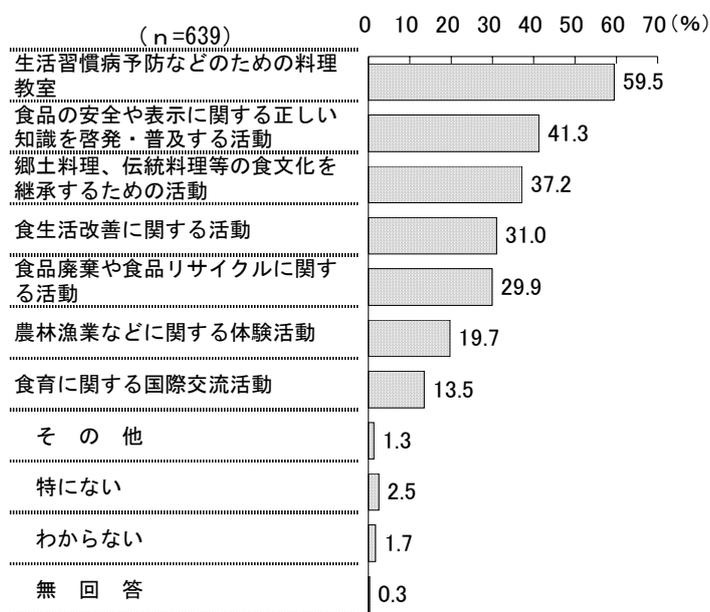
(2) 食育の推進に関わるボランティア活動への参加意向

食育の推進に関わるボランティア活動に、機会があれば参加したいと思うか聞いたところ、「参加してみたい」(40.1%)は4割、「参加してみたいとは思わない」(54.7%)は5割台半ばとなっている。



(2-1) 食育の推進に関わるボランティア活動で参加したいこと

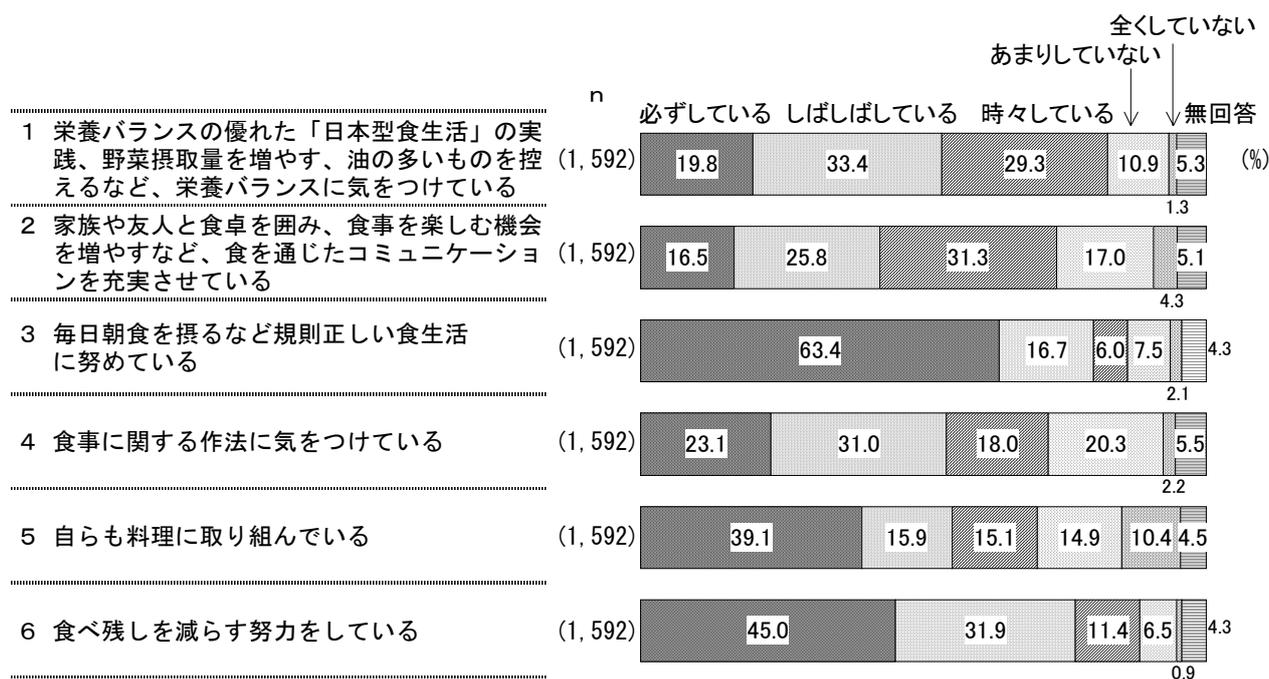
食育の推進に関わるボランティア活動に、機会があれば「参加してみたい」と答えた639人を対象に、どのようなボランティア活動に参加してみたいかを3つまで選んでもらったところ、「生活習慣病予防などのための料理教室」(59.5%)が約6割で最も高くなっている。これに「食品の安全や表示に関する正しい知識を啓発・普及する活動」(41.3%)、「郷土料理、伝統料理等の食文化を継承するための活動」(37.2%)、「食生活改善に関する活動」(31.0%)が続く。



(3) 自身の食生活

食生活で心がけていることについて、6項目に分けて聞いた。

「必ずしている」は、〈毎日朝食を摂るなど規則正しい食生活に努めている〉(63.4%)で6割台半ばと最も高く、これに〈食べ残しを減らす努力をしている〉(45.0%)、〈自らも料理に取り組んでいる〉(39.1%)、〈食事に関する作法に気をつけている〉(23.1%)が続く。「あまりしていない」と「全くしていない」を合わせた『していない』の割合は、〈自らも料理に取り組んでいる〉(25.3%)が2割台半ばで最も高く、これに〈食事に関する作法に気をつけている〉(22.5%)、〈家族や友人と食卓を囲み、食事を楽しむ機会を増やすなど、食を通じたコミュニケーションを充実させている〉(21.3%)が続く。



(4) 郷土料理、伝統食、行事食などの食文化

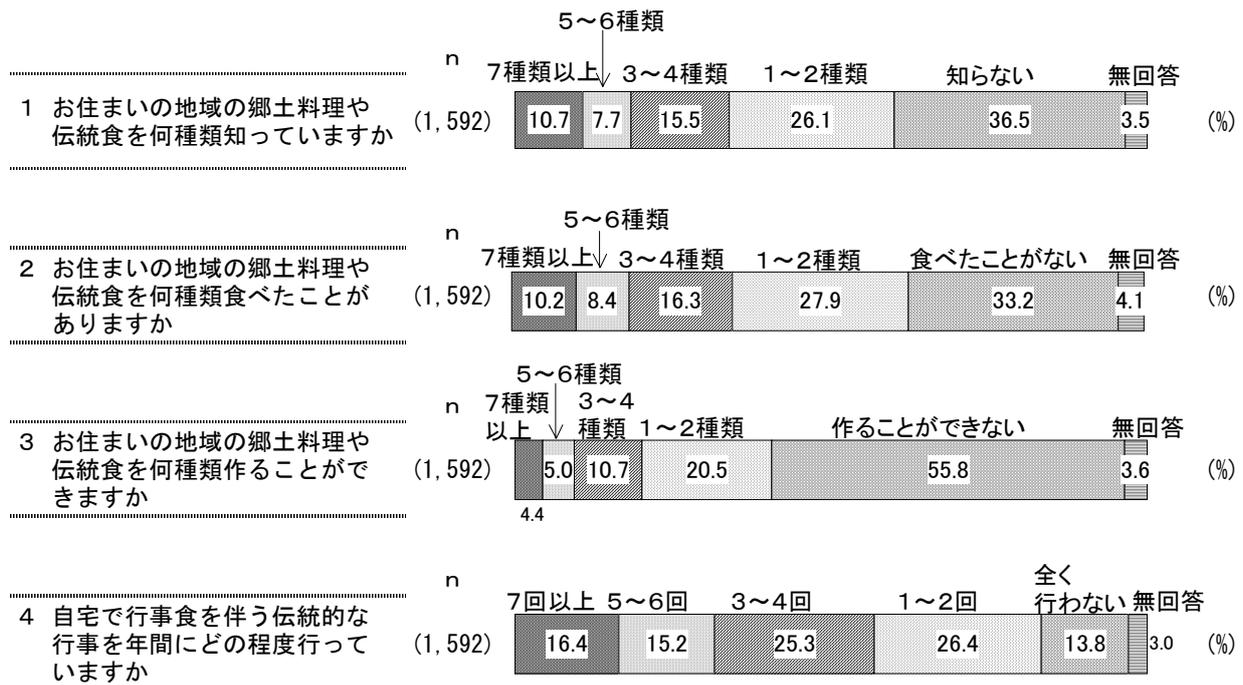
地域の郷土料理や伝統食について、どの程度行っているかを4項目に分けて聞いた。

〈お住まいの地域の郷土料理や伝統食を何種類知っていますか〉については、「7種類以上」(10.7%)が1割、「5～6種類」(7.7%)が約1割、「3～4種類」(15.5%)が1割台半ば、「1～2種類」(26.1%)が2割台半ばで、「知らない」(36.5%)は3割台半ばとなっている。

〈お住まいの地域の郷土料理や伝統食を何種類食べたことがありますか〉については、「7種類以上」(10.2%)が1割、「5～6種類」(8.4%)が約1割、「3～4種類」(16.3%)が1割台半ば、「1～2種類」(27.9%)が約3割、「食べたことがない」(33.2%)は3割台半ばとなっており、「認知度」と「食べた経験」についてはほぼ同じ傾向となっている。

〈お住まいの地域の郷土料理や伝統食を何種類作ることができますか〉については、「7種類以上」(4.4%)と「5～6種類」(5.0%)の2つを合わせると約1割、「3～4種類」(10.7%)が1割、「1～2種類」(20.5%)が2割であり、「作ることができない」(55.8%)は5割台半ばとなっている。

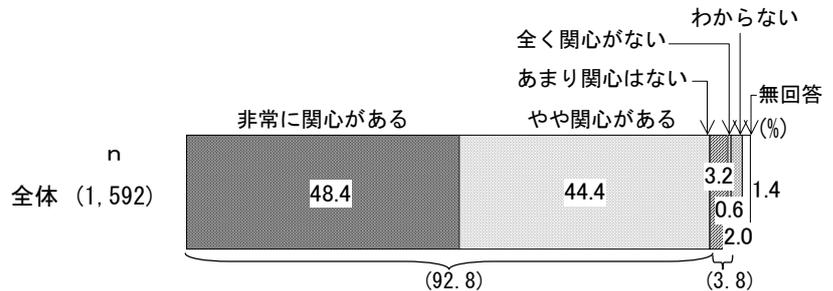
〈ご自宅で行事食を伴う伝統的な行事を年間にどの程度行っていますか〉については、「7回以上」(16.4%)と「5～6回」(15.2%)はともに1割台半ば、「3～4回」(25.3%)と「1～2回」(26.4%)はともに2割台半ばで、「全く行わない」(13.8%)は1割台半ばとなっている。



6 地球温暖化問題について

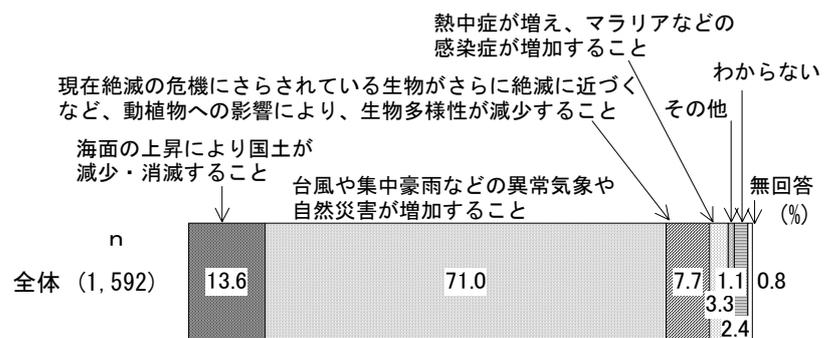
(1) 地球温暖化問題への関心度

地球温暖化問題についてどの程度関心があるか聞いたところ、「非常に関心がある」(48.4%)が約5割、「やや関心がある」(44.4%)が4割台半ばで、この2つを合わせた『関心がある』(92.8%)は9割を超えている。



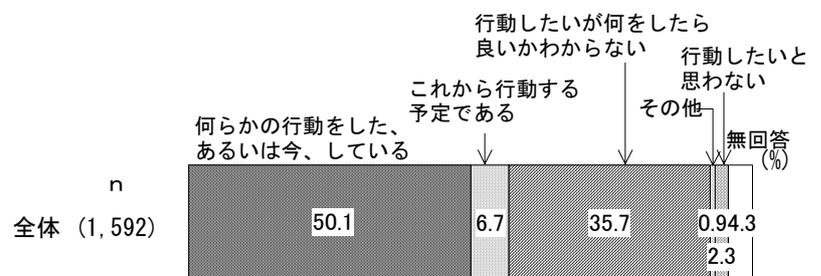
(2) 地球温暖化によって起こりうると思う問題

地球温暖化によって、近年起こりうると思う最も深刻な問題は何か聞いたところ、「台風や集中豪雨などの異常気象や自然災害が増加すること」(71.0%)が7割を超えて最も高い。他の項目は、「海面の上昇により国土が減少・消滅すること」(13.6%)は1割台半ば、「現在絶滅の危機にさらされている生物がさらに絶滅に近づくなど、動植物への影響により、生物多様性が減少すること」(7.7%)、「熱中症が増え、マラリアなどの感染症が増加すること」(3.3%)にとどまっている。



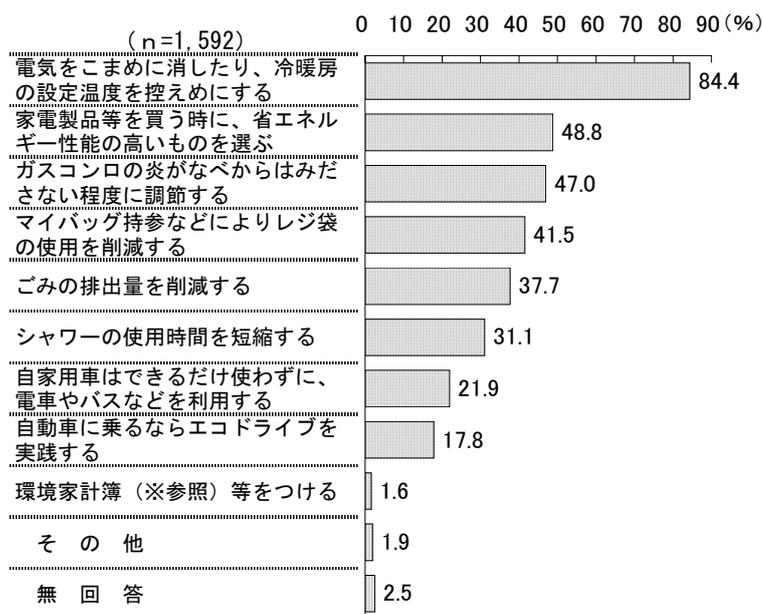
(3) 地球温暖化防止のための行動状況

地球温暖化の防止のために、何か行動をしているか聞いたところ、「何らかの行動をした、あるいは今、している」(50.1%)は5割となっている。「これから行動する予定である」(6.7%)も約1割、「行動したいが何をしたら良いかわからない」(35.7%)は3割台半ばである。



(4) 地球温暖化防止のために日常生活で行っていること

地球温暖化の防止のために日常生活で行っていることをいくつかも選んでもらったところ、「電気をこまめに消したり、冷暖房の設定温度を控える」(84.4%)が8割台半ばで特に高い。これに、「家電製品等を買う時に、省エネルギー性能の高いものを選ぶ」(48.8%)、「ガスコンロの炎がなべからはみださない程度に調節する」(47.0%)、「マイバッグ持参などによりレジ袋の使用を削減する」(41.5%)、「ごみの排出量を削減する」(37.7%)が続く。



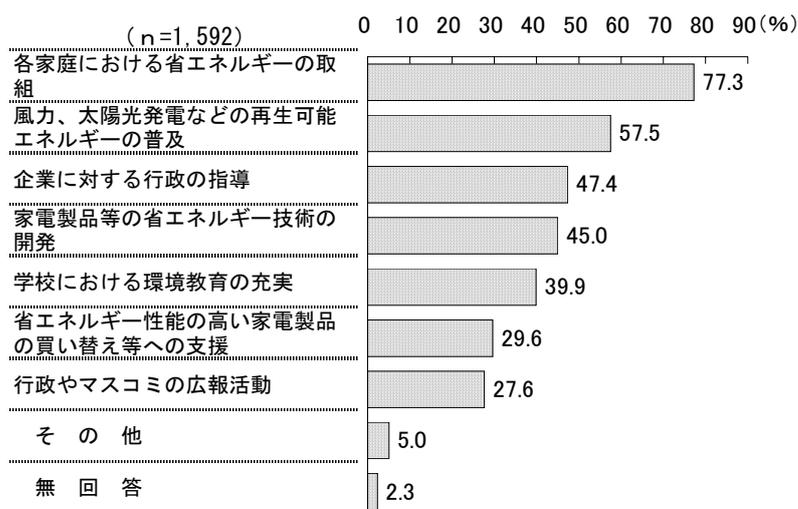
※環境家計簿

毎日の生活の中で環境に関係する出来事や行動を家計簿のように記録し、家庭でどんな環境負荷が発生しているかを家計の収支計算のように行うもの。毎月使用する電気、ガス、水道、ガソリン、燃えるごみなどの量に二酸化炭素(CO₂)を出す係数を掛けて、その家庭でのCO₂排出量を計算する。

県では、簡単に環境家計簿に取り組める「ちばCO₂CO₂(こつこつ)ダイエツトファミリーキャンペーン」を実施している。

(5) 地球温暖化防止のために必要なこと

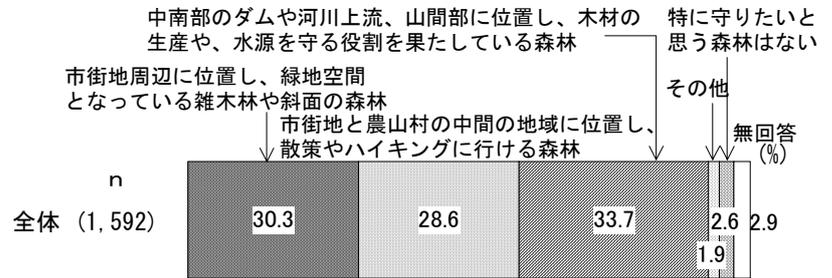
地球温暖化対策に必要だと思うことをいくつかも選んでもらったところ、「各家庭における省エネルギーの取組」(77.3%)が約8割で最も高くなっている。これに「風力、太陽光発電などの再生可能エネルギーの普及」(57.5%)、「企業に対する行政の指導」(47.4%)、「家電製品等の省エネルギー技術の開発」(45.0%)、「学校における環境教育の充実」(39.9%)が続く。



7 森林と里山に関する意識について

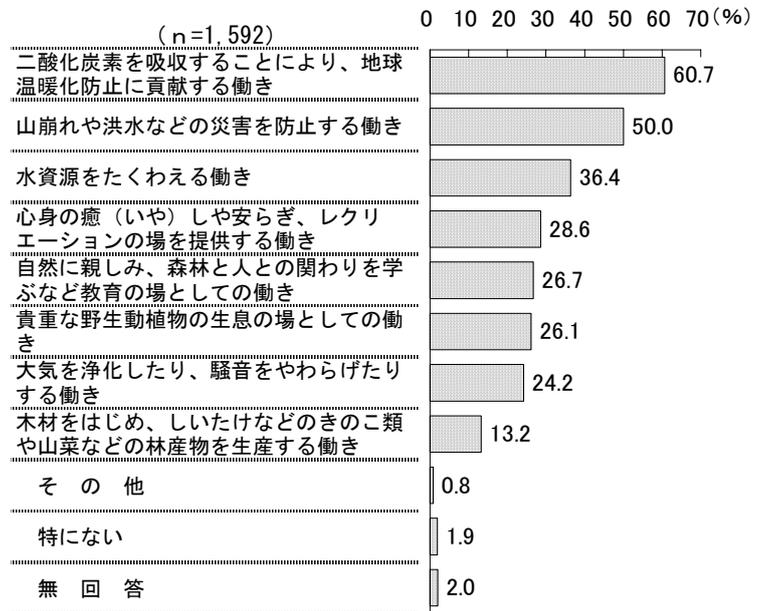
(1) 守りたいと思う千葉の森林

守りたいと思う千葉の森林はどのようなものか聞いたところ、「中南部のダムや河川上流、山間部に位置し、木材の生産や、水源を守る役割を果たしている森林」(33.7%)が3割台半ばで、「市街地周辺に位置し、緑地空間となっている雑木林や斜面の森林」(30.3%)は3割、「市街地と農山村の中間の地域に位置し、散策やハイキングに行ける森林」(28.6%)は約3割となっている。守りたいと思う千葉の森林については意見が3つにほぼ分かれている。



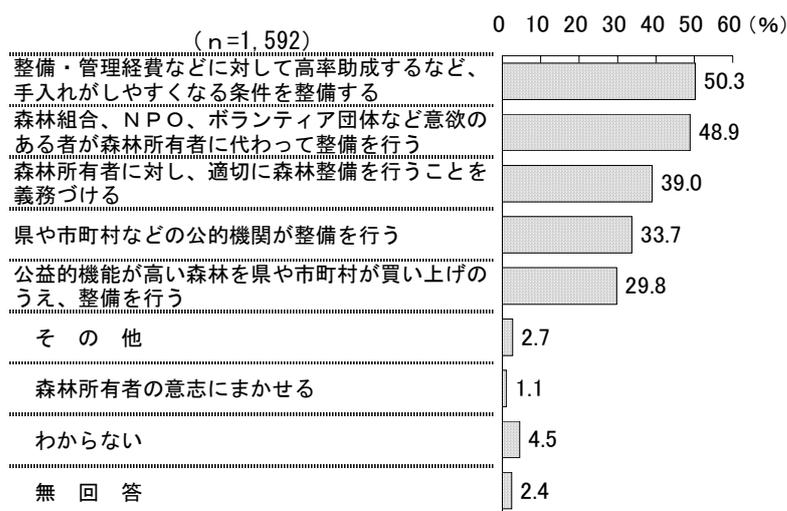
(2) 千葉の森林が担うべき働き

千葉の森林について、どのような働きを特に担うべきだと思うかを3つまで選んでもらったところ、「二酸化炭素を吸収することにより、地球温暖化防止に貢献する働き」(60.7%)が6割で最も高くなっている。これに「山崩れや洪水などの災害を防止する働き」(50.0%)、「水資源をたくわえる働き」(36.4%)、「心身の癒しや安らぎ、レクリエーションの場を提供する働き」(28.6%)が続く。



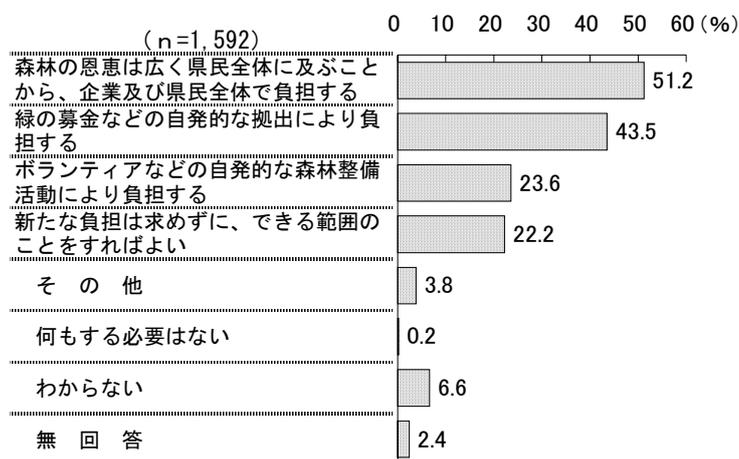
(3) これからの森林の整備方法

これからの千葉の森林は、どのような方法で整備すべきだと思うかを3つまで選んでもらったところ、「整備・管理経費などに対して高率助成するなど、手入れがしやすくなる条件を整備する」(50.3%)が5割で最も高くなっている。これに「森林組合、NPO、ボランティア団体など意欲のある者が森林所有者に代わって整備を行う」(48.9%)、「森林所有者に対し、適切に森林整備を行うことを義務づける」(39.0%)、「県や市町村などの公的機関が整備を行う」(33.7%)、「公益的機能が高い森林を県や市町村が買い上げのうえ、整備を行う」(29.8%)が続く。



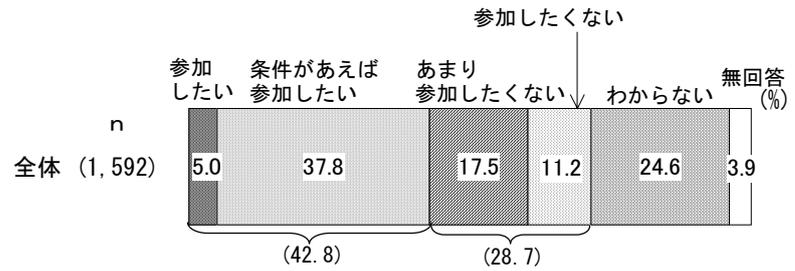
(4) 森林整備のために必要な費用負担のあり方

千葉の森林の整備を推進するのに必要となる費用の負担はどうあるべきだと思うかを2つまで選んでもらったところ、「森林の恩恵は広く県民全体に及ぶことから、企業及び県民全体で負担する」(51.2%)が5割を超えて最も高い。これに「緑の募金などの自発的な拠出により負担する」(43.5%)、「ボランティアなどの自発的な森林整備活動により負担する」(23.6%)、「新たな負担は求めずに、できる範囲のことをすればよい」(22.2%)が続く。



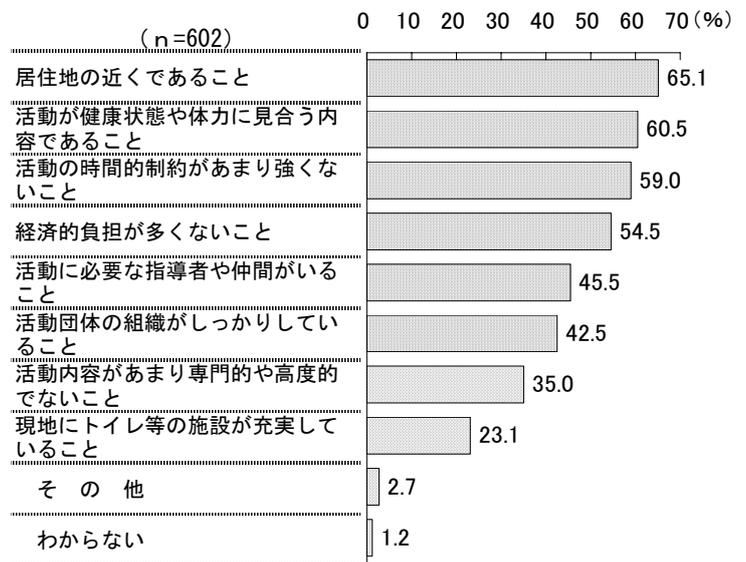
(5) 里山の保全、整備の活動への参加意向

里山の保全、整備の活動に参加したいか聞いたところ、「参加したい」(5.0%)と「条件があれば参加したい」(37.8%)の2つを合わせた『参加したい』(42.8%)は4割を超えている。「あまり参加したくない」(17.5%)と「参加したくない」(11.2%)の2つを合わせた『参加したくない』(28.7%)は約3割である。



(5-1) 里山の保全、整備の活動に参加するための条件

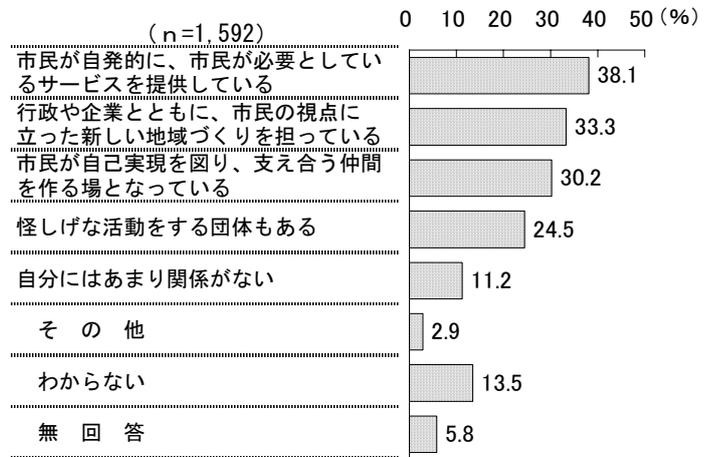
里山の保全、整備の活動に「条件があれば参加したい」と答えた602人を対象に、どのような条件(環境)が整えられれば参加しようと思うかをいくつかも選んでもらったところ、「居住地の近くであること」(65.1%)が6割台半ばで最も高くなっている。これに「活動が健康状態や体力に見合う内容であること」(60.5%)、「活動の時間的制約があまり強くないこと」(59.0%)、「経済的負担が多くないこと」(54.5%)、「活動に必要な指導者や仲間がいること」(45.5%)、「活動団体の組織がしっかりしていること」(42.5%)、「活動内容があまり専門的や高度的でないこと」(35.0%)、「現地にトイレ等の施設が充実していること」(23.1%)、「その他」(2.7%)、「わからない」(1.2%)が続く。



8 市民活動について

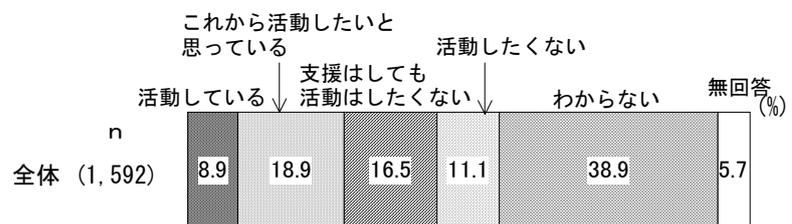
(1) 市民活動に対するイメージ

市民活動についてどのようなイメージを持っているかをいくつかも選んでもらったところ、「市民が自発的に、市民が必要としているサービスを提供している」(38.1%)が約4割で最も高い。次いで「行政や企業とともに、市民の視点に立った新しい地域づくりを担っている」(33.3%)、「市民が自己実現を図り、支え合う仲間を作る場となっている」(30.2%)、「怪しげな活動をする団体もある」(24.5%)が続く。



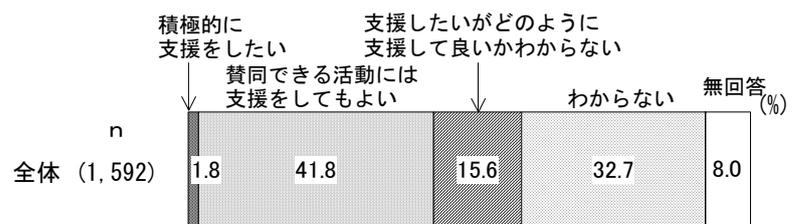
(2) 市民活動の参加状況

市民活動をしているか聞いたところ、「活動している」(8.9%)は約1割で、「これから活動したいと思っている」(18.9%)は約2割となっている。「支援はしても活動はしたくない」(16.5%)は1割台半ばで、「活動したくない」(11.1%)は1割を超えている。



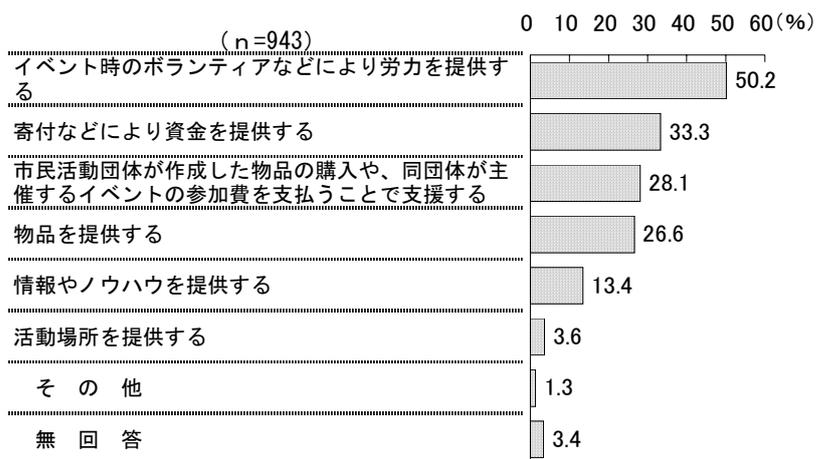
(3) 市民活動への支援意向

市民活動に対して何らかの形で支援をしたいと思うか聞いたところ、「積極的に支援をしたい」は1.8%にとどまるが、「賛同できる活動には支援をしてもよい」(41.8%)が4割を超えている。「支援したいがどのように支援して良いかわからない」(15.6%)は1割台半ばである。



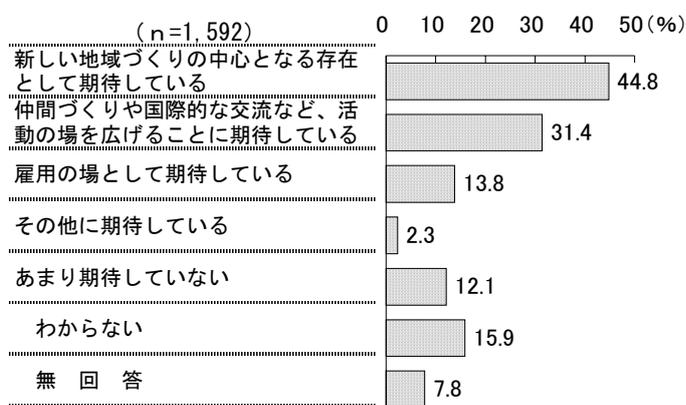
(3-1) 市民活動への支援の内容

市民活動に対して「積極的に支援をしたい」、「賛同できる活動には支援をしてもよい」または「支援したいがどのように支援して良いかわからない」と答えた943人を対象に、市民活動にどのような支援をしたいと思うかをいくつでも選んでもらったところ、「イベント時のボランティアなどにより労力を提供する」(50.2%)が5割で最も高くなっている。これに「寄付などにより資金を提供する」(33.3%)、「市民活動団体が作成した物品の購入や、同団体が主催するイベントの参加費を支払うことで支援する」(28.1%)、「物品を提供する」(26.6%)が続く。



(4) 今後の市民活動に対する期待

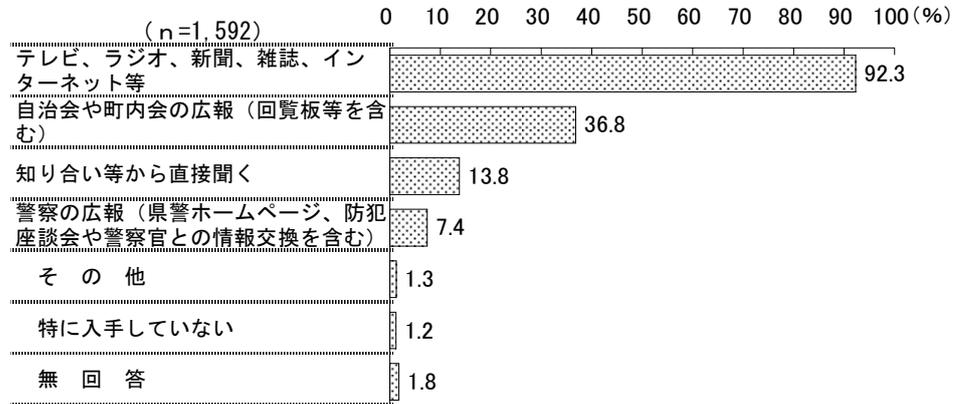
今後の市民活動について、どのような面の発展に期待しているかをいくつでも選んでもらったところ、「新しい地域づくりの中心となる存在として期待している」(44.8%)が4割台半ばで最も高くなっている。これに、「仲間づくりや国際的な交流など、活動の場を広げることに期待している」(31.4%)、「雇用の場として期待している」(13.8%)が続く。



9 犯罪のない安全で安心なまちづくりについて

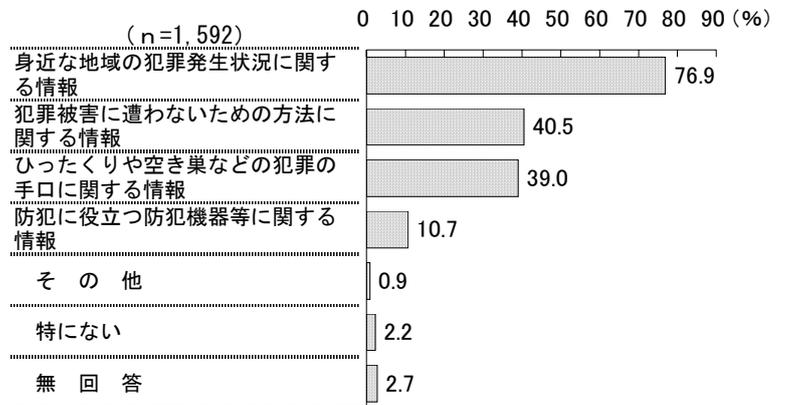
(1) 犯罪や防犯に関する情報を得る方法

犯罪や防犯に関する情報を主にどこから入手しているかを2つまで選んでもらったところ、「テレビ、ラジオ、新聞、雑誌、インターネット等」(92.3%)は9割を超えている。これに「自治会や町内会の広報(回覧板等を含む)」(36.8%)、「知り合い等から直接聞く」(13.8%)、「警察の広報(県警ホームページ、防犯座談会や警察官との情報交換を含む)」(7.4%)が続く。



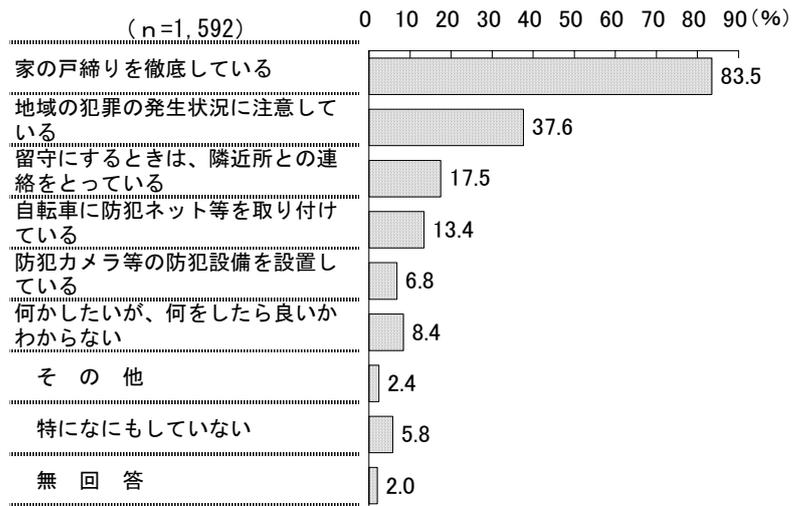
(2) 提供してほしい犯罪情報

提供してほしい犯罪情報は何かを2つまで選んでもらったところ、「身近な地域の犯罪発生状況に関する情報」(76.9%)が7割台半ばで最も高くなっている。これに「犯罪被害に遭わないための方法に関する情報」(40.5%)、「ひったくりや空き巣などの犯罪の手口に関する情報」(39.0%)、「防犯に役立つ防犯機器等に関する情報」(10.7%)が続く。



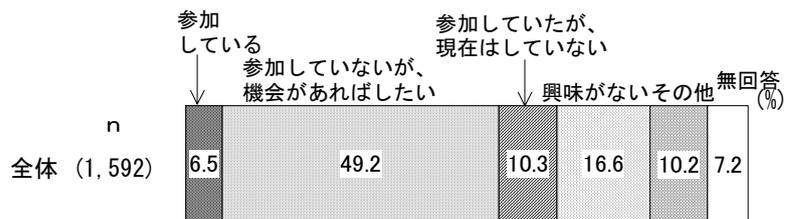
(3) 犯罪に遭わないために心がけていること

犯罪に遭わないために心がけていることをいくつでも選んでもらったところ、「家の戸締まりを徹底している」(83.5%)が8割台半ばで最も高くなっている。これに「地域の犯罪の発生状況に注意している」(37.6%)、「留守にするときは、隣近所との連絡をとっている」(17.5%)、「自転車に防犯ネット等を取り付けている」(13.4%)が続く。



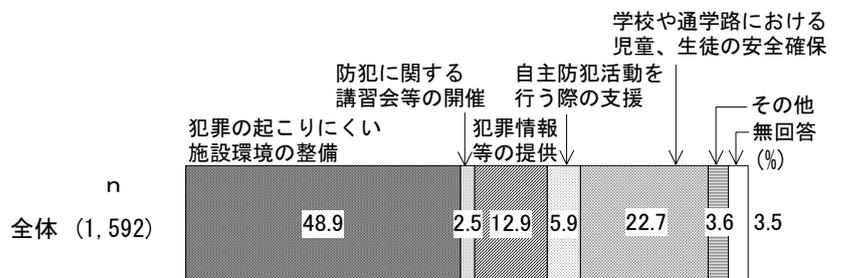
(4) 自主防犯活動等への参加状況

自主防犯活動等に参加しているか聞いたところ、「参加している」(6.5%)は1割に満たないが、「参加していないが、機会があればしたい」(49.2%)は約5割となっている。「参加していたが、現在はしていない」(10.3%)は1割、「興味がない」(16.6%)は1割台半ばとなっている。



(5) 犯罪を防止するために行政に望むこと

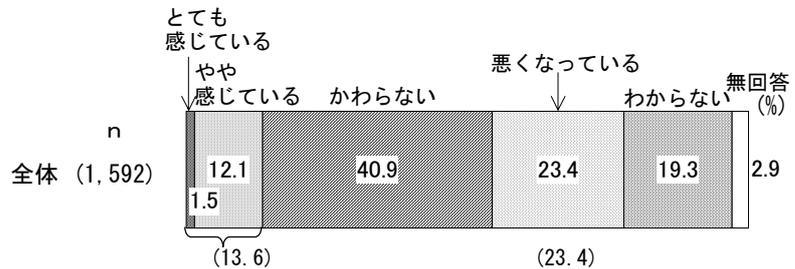
犯罪を防止するために、警察を含む行政に望むことは何か聞いたところ、「犯罪の起こりにくい施設環境の整備」(48.9%)が約5割で最も高くなっている。「学校や通学路における児童、生徒の安全確保」(22.7%)は2割を超え、「犯罪情報等の提供」(12.9%)は1割を超えている。「自主防犯活動を行う際の支援」(5.9%)、「防犯に関する講習会等の開催」(2.5%)はわずかである。



10 県民の治安に対する意識と交番に求めることについて

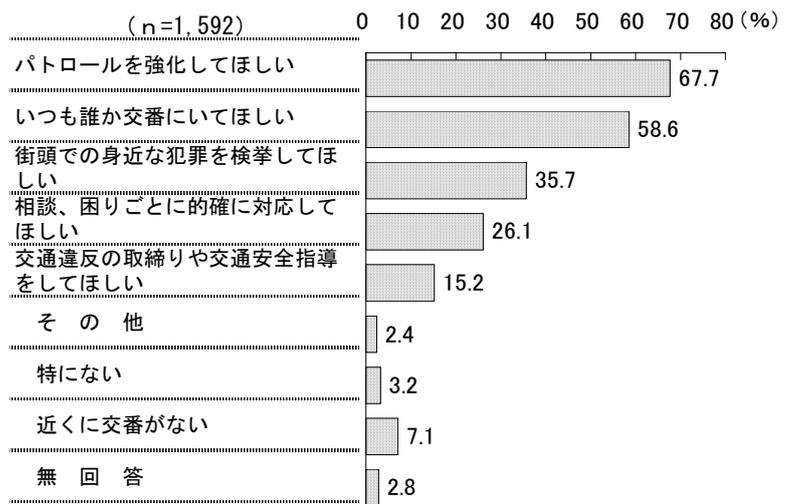
(1) この1年の体感治安の変化

居住地における治安がこの1年（又は最近）良くなってきていると感じるか聞いたところ、「とても感じている」（1.5%）と「やや感じている」（12.1%）を合わせた『良くなっている』（13.6%）は1割台半ばとなっている。一方、「悪くなっている」（23.4%）は2割台半ばとなっている。「かわらない」（40.9%）は4割である。



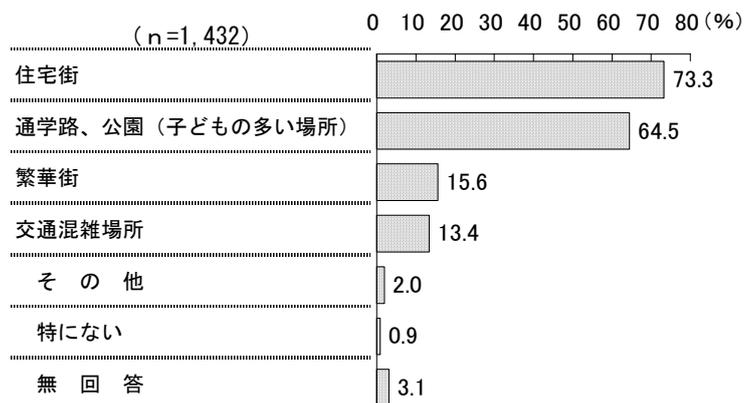
(2) 交番の警察官に期待すること

交番の警察官に期待することをいくつか選んでもらったところ、「パトロールを強化してほしい」（67.7%）が約7割で最も高くなっている。これに「いつも誰か交番にいてほしい」（58.6%）、「街頭での身近な犯罪を検挙してほしい」（35.7%）、「相談、困りごとに的確に対応してほしい」（26.1%）、「交通違反の取締りや交通安全指導をしてほしい」（15.2%）が続く。



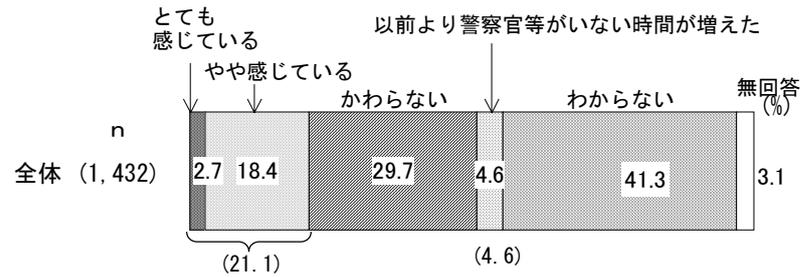
(2-1) 交番の警察官に重点的にパトロールしてほしい場所

交番の警察官に対して何らかの期待することを挙げた1,432人を対象に、重点的にパトロールしてほしい場所はどこかを2つまで選んでもらったところ、「住宅街」（73.3%）が7割台半ば、「通学路、公園（子どもの多い場所）」（64.5%）が6割台半ばで、この2項目が特に高くなっている。これに「繁華街」（15.6%）、「交通混雑場所」（13.4%）が続く。



(2-2) 空き交番解消の印象

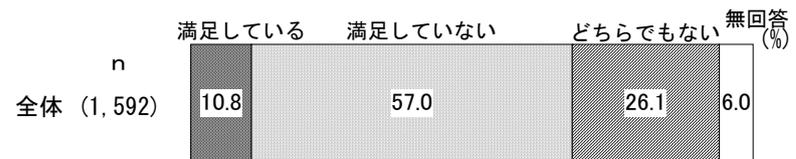
交番の警察官に対して何らかの期待することを挙げた1,432人を対象に、空き交番はなくなったと感じるか聞いたところ、「とても感じている」(2.7%)と「やや感じている」(18.4%)の2つを合わせた『感じている』(21.1%)は2割を超えている。「かわらない」(29.7%)は約3割で、「以前より警察官等がない時間が増えた」(4.6%)はわずかである。



11 道路整備について

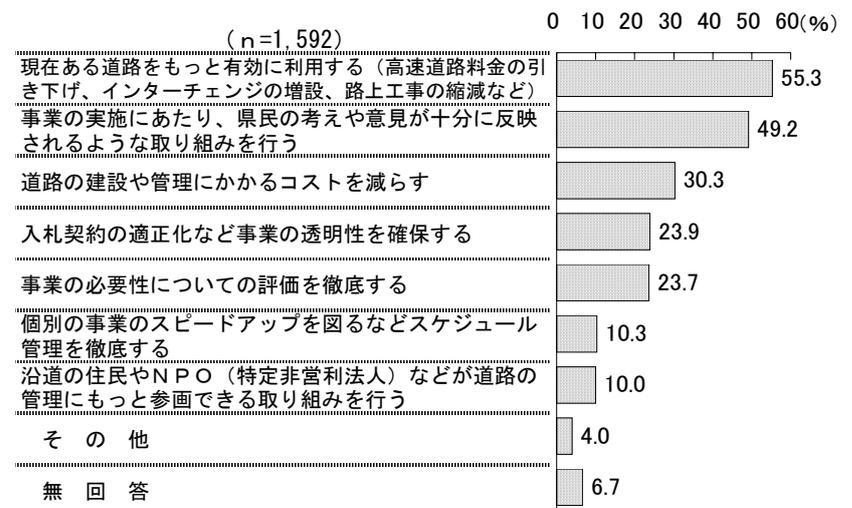
(1) 県内の道路状況の満足度

県内の道路状況について満足しているか聞いたところ、「満足していない」(57.0%)は約6割で、「どちらでもない」(26.1%)は2割台半ば、「満足している」(10.8%)は1割となっている。



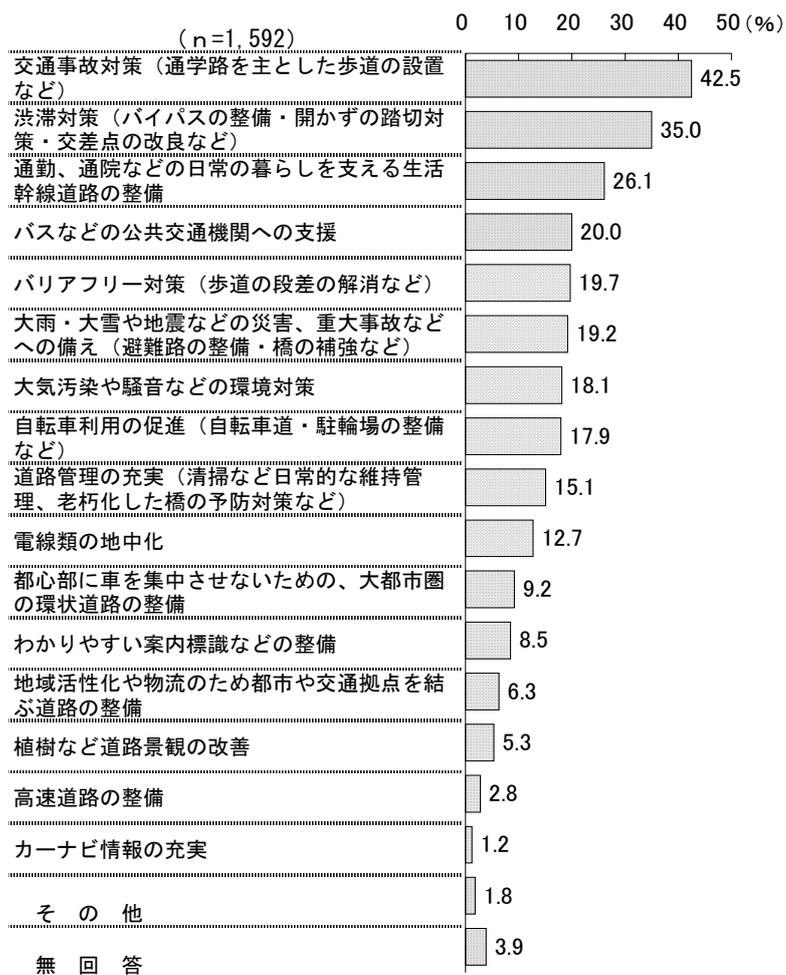
(2) 道路政策の効率化のために大事なこと

今後の道路政策において、効率化を徹底するためにはどのようなことが大事だと思うかを3つまで選んでもらったところ、「現在ある道路をもっと有効に利用する(高速道路料金の引き下げ、インターチェンジの増設、路上工事の縮減など)」(55.3%)が5割台半ばで最も高くなっている。これに「事業の実施にあたり、県民の考えや意見が十分に反映されるような取り組みを行う」(49.2%)、「道路の建設や管理にかかるコストを減らす」(30.3%)、「入札契約の適正化など事業の透明性を確保する」(23.9%)、「事業の必要性についての評価を徹底する」(23.7%)、「個別の事業のスピードアップを図るなどスケジュール管理を徹底する」(10.3%)、「沿道の住民やNPO(特定非営利法人)などが道路の管理にもっと参画できる取り組みを行う」(10.0%)、「その他」(4.0%)、「無回答」(6.7%)が続く。



(3) 道路整備について優先的に対策すべき課題

道路整備について、優先的に対策すべき課題は何かを3つまで選んでもらったところ、「交通事故対策」(42.5%)が4割を超えて最も高くなっている。これに「渋滞対策」(35.0%)、「通勤、通院などの日常の暮らしを支える生活幹線道路の整備」(26.1%)、「バスなどの公共交通機関への支援」(20.0%)、「バリアフリー対策」(19.7%)が続く。



【自由回答（抜粋）】

県への意見を自由に記述していただいたところ、384人から延べ434件の回答が寄せられた。

記述いただいた内容は多岐に渡り、県政の各施策におおむね沿った分野で整理した。意見の多い項目に関して、一部抜粋してご意見を記載した。

■県政全般に対する要望

○さまざまな県民の要望に応えるための施策は必要ですが、全国どこも財政難に苦しんでいます。将来、または、未来の子ども達に負の財産を残さないよう、財政再建に取り組んでください。（男性・50代・西地域）

○安全で快適な住みやすい街づくりを目指していただきたいと思います。そのために県民が参加すべき内容のことは、広く情報を公開してほしいと思います。（男性・30代・西地域）

■調査に関して

○アンケートを採ることで安心せず、内容をきちんと考えて県政に活かしてください。集めた税金は無駄なことには使わず、本当に必要なことに使ってください。県民の立場に立ち、すべてのことに取り組んでください。（女性・20代・南地域）

■道路を整備する

○これから急速に進む少子高齢化社会に向け、経済効率のよい生活が求められてくる。特に高齢化率の高い地方は、救急医療・福祉の面で厳しい環境に既にあると思われる。現在ある医療施設や福祉施設を効率よく使うこと、さらには、高齢者に積極的に社会参画していただくためにも、道路網等の整備は緊急の課題だと考える。また、都市部でも渋滞対策は、経済活動はもとより普段の生活においても大きな障害になっている。千葉県には大きな空港・港湾があるが、道路との連携や道路網が不十分なため、十分機能していないのが現状と考えられる。これらの施設を今後、より効果的に利用するにはどうしたらいいのか。千葉県の50年後・100年後を見据えた中で、必要なインフラ整備を着実に進めてほしい。（男性・50代・中央地域）

■医療サービス体制を整備する

○医療機関が近くになく困っています。具合の悪い子どもを遠くまで連れていくのは大変です。また、入院できるような病院も少なく、喘息を持つ子どもがいるので、発作が起きたらと思うと不安な日々です。夜間、診てくださるところもないので、それも不安です。小児は急変しやすいので、医療機関の充実をお願いします。安心して子どもを産み育てることのできる地域こそ、発展するのではないかと考えます。（女性・30代・西地域）

■高齢者の福祉を充実する

○健康な高齢者が簡易に楽しく取り組める環境（整備・美化）ボランティアの導入とその情報提供や、専門家による講習会の開催と活動への参加等を望みます。社会のお役に立ちたい気持ちはあります。他市の取組を見学する機会（実費でも）や他市との意見交換、我が町で何が可能か知恵を出す場などを設けてほしい。年とともに、これまでの人生に感謝と還元したい気持ちが高まるものです。（女性・60歳以上・西地域）

■次世代を担う子どもの育成支援を充実する

○県に一番望むことは、「子育て支援」です。乳幼児医療費助成・児童手当の年齢を所得に応じて引き上げてほしいです。あとは、病児保育施設の増設、保育料の引下げ、保育園開園時間の延長など、共働き家庭を支援するような取組が今後増えてくれることを期待しています。共働きで一番困るのは、子どもが病気になったとき…。そういうときにサポートしてくれる人（ボランティア）などが地域にいてくれたら…と思います。（女性・20代・西地域）

■住んでいる市町村への要望

○夫婦で自営業を営んでいます。最近特に思うのですが、国民健康保険料が高いと思います。これは県ではなく各市だとは思いますが、国全体でも保険料が払えず医者へ行きたくても行けない人が多いと聞いています。高い保険料を払っているのだから、近年、毎年問題になっているインフルエンザの予防注射を保険内にするなど、内容をもっと充実させてほしいと考えます。（女性・40代・中央地域）

■便利な交通網を整備する

○家の前をバスが走っていても、バス停まで歩いて20分以上かかります。手をあげて止まってくれたら助かります。どこでもではなく、バスが止まれるスペースがある所に限りませんが…。（女性・30代・中央地域）

■学校教育を充実する

○小・中学校の保護者に対して、各学校に講師を招き、親へのアドバイス等を県の予算でぜひ行ってほしいです。学校だけでは勉強以外の生活指導は難しいと思うのです。教育に多くの予算をお願いいたします。（男性・50代・西地域）

■犯罪防止対策をすすめる

○最近物騒な世の中になり夜は心細いです。昔は警察官を交番のおまわりさんと呼び、常に見かけて安心感がありましたが、現在は何かあったときにサイレンを鳴らしているパトカーを見かけるだけです。事件と警察官でなく、おまわりさんと安心の時代を願います。自分なりに防犯を心がけていますが、アルツハイマーを気にすることが多くなりました。近頃では若い方達がボランティアに参加されるとか、ありがたく思います。（女性・60歳以上・東地域）